

岡山県大会(2016-11-27)

# 共に生きる

～相模原事件を受けて考える～

全国手をつなぐ育成会連合会  
会長 久保 厚子

岡山県大会(2016-11-27)

## 「共生社会を」といわれて

- ◆「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会のことをいう。
- ◆誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会をいう。

しかし・・・

岡山県大会(2016-11-27)

### 相模原事件の概要

- ・「津久井やまゆり園」に26日午前2時頃、1階の窓ガラスをハンマーで割り、刃物を持って侵入。
- ・容疑者は止めに入った職員を縛った上で、部屋の鍵を奪い、利用者を次々に刺していった。
- ・利用者45人を刺し、男性9人、女性10人が死亡他に男女20人が重症、7人が軽傷。
- ・午前3時過ぎ、容疑者が「私がやりました」と津久井警察署に出頭。
- ・出頭した時、3本の刃物が入ったカバンを所持し、一部に血痕が確認。(現場にも2本あり計5本)

岡山県大会(2016-11-27)

### 容疑者の概要

- ・容疑者の自宅は「津久井やまゆり園」から徒歩10分程の、民家が点在する地域にある一戸建住宅。
- ・近所の評判は、明るくて礼儀正しい成年。
- ・一方で、大麻を吸い、入れ墨、切れやすい。
- ・今年2月14日に、衆議院議長公邸を訪れ、手紙を障害者殺害を書いた内容の手紙を渡そうとしたが、受付で受け取ってもらえず、翌日の15日に再び議長の公邸を訪れ手紙を渡した。
- ・14日、15日共に警察へ連絡。

岡山県大会(2016-11-27)

- ・手紙は、A4サイズのレポート用紙数枚に手書きで「保護者の疲れ切った表情、職員の生気の欠けた瞳」を挙げ「障害者は不幸を作ることしかできない」などと書き「私の目的は重複障害者の方が家庭内での生活及び社会生活が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です」と、複数の障害者施設を挙げて「ここで470人を抹消することができる」などの内容。(強い偏見、差別感感情)
- ・2月18日には、勤務していた「津久井やまゆり園」で、職員に「重度障害者を殺す」と発言、施設は19日に津久井警察署に連絡。

岡山県大会(2016-11-27)

- ・施設は19日に「大変危険な考えだ」と伝えたが、容疑者は「自分は間違っていない」と激しく主張、その場で退職願いを提出。
- (2012年12月非常勤、2013年4月常勤として勤務)
- 19日に警察署員が面談した際は「重度障害者の大量殺人は、日本国の支持があればいつでも実行する」と話す。(障害者の存在を否定)
- ・医療機関で診察した医師は「そう病」と診断。
- ・同日、緊急措置入院。
- ・2月22日の再診察で大麻の反応があり「大麻精神病」「妄想性障害」などと診断、改めて措置入

- その後の診察で、措置入院の必要性は消失したと判断され、3月2日に退院。
- 容疑者への退院後の地域での支援はなし。
- 施設内部を熟知し、2時頃侵入し、3時頃出頭までのわずか約1時間の犯行で、迷わず移動し犯行。
- 2時38分ころ施設より通報、2時50分ツイッターに「世界が平和になりますように」と投稿、3時過ぎ津久井警察署に出頭。
- 取り調べで「突然のお別れをさせるようになってしまい、遺族には心から謝罪したい」と話す。(亡くなった障害者への謝罪は無い)

7

### 容疑者の言葉に不安の声

- 障害のある本人たちや家族からの不安の声が多く寄せられる。  
「怖い」「家から出られない」「周りの目が怖い」「お母さん、僕殺されるの?」「毎日行っている〇〇の支援者を信用してもいいの?」「私たち親はいつも少し遠慮して暮らしているのに、こんな事件が起きて、これからどうして生きて行けばいいのか分からない」「我が子の存在が否定されて悲しい」

8

### メッセージに対する声・反響

「ありがとうございました。救われました。」  
 「親の気持ちを伝えてもらった。」  
 「何度も読み返し、涙が溢れてくる。ありがとう。」  
 「長年かけて知的障害者の尊厳を守る活動をされてきたから発することのできる、力強さと優しさを感じる。がんばってください。」  
 「勇気をもらった。」  
 「これからも我が子と共に、前を向いて歩いて行きます。」

9

### 課題を再確認させられた声

- <寄せられた声の中には>
- あんたたちの子どもは、社会の為に何の役にも立っていないよ。
  - 役に立たない者に税金を使うな。
  - 偉そうなことを言うな。迷惑だ。
  - 自分が誰かも分かっていない者は必要ない。
  - 重度障害者の姿を見るのも嫌だ。
  - 障害者は邪魔なだけだ。死ね!
  - ネット上でも同様の声が多く飛び交っている。

10

- 差別意識の強い特異な事件である。
  - 国民の多くには、まだまだ障害者は別の意識が存在する。
- グループホームの開設反対も同種の意識から。
- この事件は、どのような背景があったとしても決して許されることではない。
  - 障害者を人として見ていない考えである。
  - 障害があっても、与えられた環境のなかで精一杯前向きに生きている人たちである。
  - 障害が重くても生きる価値は誰にでもある。

11

### 犠牲者が匿名であること

- 警察から名前を公表するか否かと聞かれれば、事件直後なら後の騒ぎを思うと、誰でも匿名を選択する。
- 親や家族を責めることはできない。
- 県警は善意で聞いたのだろうが、どのように言って聞いたのか。
- 今まで、障害の有無に係らず公表してきた。
- そこに、障害者は「可哀想な人」入所施設を利用していることは「不名誉なこと」と言った偏見(差別的意識)があったのでは?

12

岡山県大会(2016-11-27)

### 施設の安心安全とは

- ・障害者の入所施設は、周囲の市民から見るとどのような人たちが、どのような暮らしをしているのか分かりにくい存在である。安心、安全に重きを置きすぎると、更にクロードな存在になり、その地域に居ない存在になってしまう。
- ・地域と交流することで、地域の監視の目が期待でき、セキュリティの一つにもなる。
- ・地域に開かれた施設を目指してきたはず。今後もその方向性が変わらないようにしたい。

13

岡山県大会(2016-11-27)

### 手もつなく



14

岡山県大会(2016-11-27)



### だいじょうぶ、 手をつなごう

15

岡山県大会(2016-11-27)

### 私たちの思い

- ・障害を理由に、匿名の様に特別な配慮を求めることは出来ない。(我が子の存在が無くなる) 今後、親も乗り越えなければならない課題である。
- ・事件があったからこそ、もっと自分たちは前に出て伝えることをやっていたい。心ない言葉があって、それに一つひとつ反論するというよりも、こういうメッセージの出し方で多くの皆さんに気付いていただきたい。「前向きに生きています。」

16

岡山県大会(2016-11-27)

### 写真を投稿した方のメッセージ

- ・笑顔で、私たちの幸せを伝えることができるんだと思った。
- ・先生から、二十歳まで(生きるの)は無理じゃないと言われていた。成人を迎えて、着物を着て写ることは、これだけの笑顔が出る、家族みんなが笑顔になれるだけのうれしいことなんだと伝えたい。
- ・いままで、色んなことがありました・・・これからは、色んなことがありますが、でも、この子が生まれて私たちは幸せです。

17

岡山県大会(2016-11-27)

- ・できない事を辛いと嘆くより、できた事を喜んで笑っていることの方がいい気がします。沢山の優しさを知ることができ、私たちは幸せです。
- ・私の長男も重度で重複障害です。おまけに難病もあります。でも、私は日本一幸せにしてあげたいと思って今まで育ててきました。辛い時もありましたが、あの子の笑顔に支えられてきました。
- ・事件は、私たち支援者への信頼をも傷つけたと思います。しかし、私たちは、利用してくれる方の最高の笑顔を見ようと日々実践しています。今後もその決意に変わりはありません。

18

- ・その社会に住む一人ひとりが、その生を喜び生まれて来たことの生き甲斐を感じるようであれば本当の成熟した社会ということは出来ない。
- ・その成熟した社会は、精神的な福祉面の増大に支えられていなければ、その名に値するものではない。
- ・人が人を理解し多様性を認めるということの深い意味を探究する必要がある。
- ・自らの功利主義や差別観とも戦い「自分自身との対立にまで人を立ち向かわせる」

- ★マイナスをプラスに変換しよう！！
- ★前向きに創造しよう！！
- ★みんなでやろう！！

### みんなが安心して暮らせる街作り

- ・差別解消法の県条例を作ることは大切。
- ・次に、作った条例に皆の魂を入れる。
- ・支援を必要とする人を中心にして、楽しい行事を行う。
- ・支援を必要とする人を交えて、防災訓練をする。
- ・楽しいところ、安心できるところに、人は集まる。
- ・障害者理解にもつながる。

### できないところを見るのではな

〇〇がないと → 〇〇があれば  
△△ができない人 (変換) △△ができる人



ポジティブとらえると、出来ることが沢山見つかる。

- ★否定的な見方を肯定的に変える。

### 自分の価値の感じ方チェック

- ① 人よりできないより、できた方がいい？
- ② 欠点はあってはいけない？  
(直さなければいけない)
- ③ 平均的であることは大事だと思う？
- ④ 「生きていく」ってどういうこと？  
\*一人で？ みんなと？

### 周囲の皆が学んだこと

- ・一人一人かけがいのない生命を持っている存在であり、この子の生命は本当に大切なものだということ。
- ・「人間」と言う抽象的な概念でなく、「この子」と言う生きた生命、個性のあるこの子の生きる姿の中に共感と共鳴を感じた。
- ・ただ無為に生きているのではなく、生き抜こうとする必死の意欲を持ち、自分なりの精一杯の努力を注いで自己実現をして生活している事実。

## 人と生まれて人間となる

- 人間は人と人の間と書く、単なる個体ではありません。社会的な存在であることを意味しています。
- 人間関係を持っていることが人間の存在の理由です。
- 人間と人間との関係が人間を形成してゆくのです。
- 生きるということは社会的な存在として生きることなのです。  
(どんなに重い障害があっても)

## この子らを世の光に

どんなに重い障がいがあっても、だれと取り替えることもできない個性的な自己実現をしているものなのである。人間と生まれて、その人なりの人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。

私たちの願いは、重症な障がいのある子どもたちも、立派な生産者であるということ、認めあえる社会をつくらうということである。  
(糸賀一雄氏の言葉)

## この子らを世の光に

- ◆自己実現という生産活動をしているとは  
↓
- ◆もう一つの別な生産活動をしているのである
- ◆重度の障がいのある人の生活がそこにあることによって、親や支援者、社会が開眼させられ、障害福祉（日本の福祉）の思想の変革までを生産しているということである。
- ◆理解を中核とした社会形成の理念をめざしたい。（教育を含む心のバリアフリーの推進）